旅 行 報 告 書

会 派 名　創水会

会派代表者　大 川 末 長

平成25年4月24日

旅行者氏名	旅行者氏名
大 川 末 長	真 野 頼 隆
渕 上 道 昭	髙 岡 利 治
田 口 憲 雄	江 口 隆 一
谷 口 明 弘	

次の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間　平成25年4月22日(月曜日)から

平成25年4月23日(火曜日)まで

2 旅行先及び用務

旅行先	目　的
大分県日田市 (日田ウッドパワー発電所)	木質バイオマス発電事業について(現地視察)
〃 (日田十条㈱)	木質バイオマス発電に係る諸課題について
佐賀県武雄市 (武雄市図書館)	武雄市図書館(民間委託)の現地視察

創水会行政視察報告書

１　派遣者

大川　末長

渕上　道昭

真野　頼隆

高岡　利治

田口　憲雄

江口　隆一

谷口　明弘（報告者）

２　視察日時・視察先・視察項目

４月２２日（月）　大分県日田市　日田ウッドパワー発電所→日田十条視察

４月２３日（火）　佐賀県武雄市　武雄市図書館視察

３　視察の概要

■　４月２２日　大分県日田市　日田ウッドパワー発電所の運営状況視察

現在水俣市が進めている木質系バイオマス発電所建設計画の参考にするため、平成１８年から営業運転を開始している日田ウッドパワーを訪問した。

そもそも、この日田地域は全国でも有数の国産木材の集散地であり大分県はもとより福岡・熊本・宮崎の一部も原木集荷対象地域としている。地域内には原木市場が７市場あり、１００社近くの製材工場が点在する特有の土地柄である。発電所に行く道中も多くの木材加工所があった。

【日田ウッドパワー発電所の概要】

○　発電出力　１２，０００kW

１０，０００kWは売電、２，０００kWは所内電力

○　燃料の使用量　木質チップ年間１２万トン（一日約３６０トン）

○　燃料の種類　　木質チップ（未利用材・一般木材・リサイクル材）

○　敷地面積　約２．４ｈａ

○　運転開始　平成１８年１１月

○　雇用人数　２３名

敷地は日田市の山間部を広大に開いて造成したウッドコンビナートの一角にあり、たくさんの木材が野積みされた製材所がコンビナート無いに林立している。

毎日３６０トンの燃料を必要とすることから、２０トントラックに実質１０トンしか積めないので一日４０台程度のトラックが燃料を運んでくる。
運び込まれた木質チップ燃料は一時サイロに保管される。このサイロには３日分の燃料を保管できる。木質チップの内訳は間伐材４０％（約５万トン）、一般材１０％（約１トン）、リサイクル材（約６トン）。間伐材はどうしても水分量が多くなるので、その分公立が悪くなるが、リサイクル材（建築廃材など）は釘などの異物の除去、廃棄の手間がかかる。これらの異物は一日でドラム缶１～２杯にもなる。

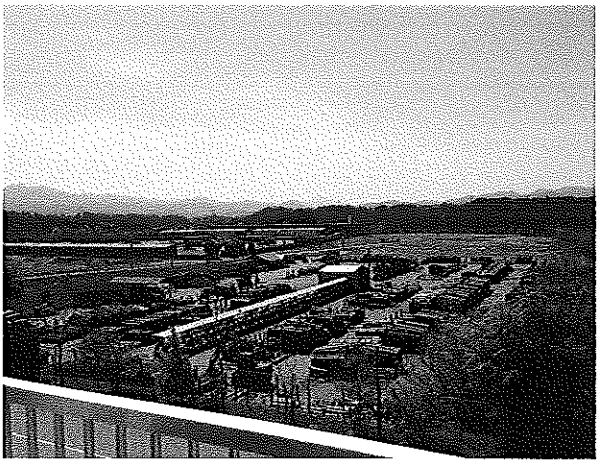
サイロからはコンベアーを使い自動的に燃料がボイラー内に供給され、ボイラーで発生した蒸気を回転動力に変換するタービンを使って発電を行う。発電効率は２７％である。

タービンを回転させた後の高温の蒸気は復水器によって水に戻されるが、日田ウッドパワーではこれを水の節約のために空冷式の装置を使用している。

一日あたり約２０トンの焼却灰が発生するがこれは、これをセメントや路盤材、土壌改良などに利用し出来る限り廃棄物を出さないローエミッションシステムを導入している。

一番懸念される、木質チップの収集確保について、１８年の設立から数年は燃料集めに苦慮し赤字の時期もあったが、現在では１００社あまりの供給会社と契約し、燃料調達から設備保守まで自社グループで管理出来るようになり、国の再生エネルギー固定価格買い取り制度の効果も相まって黒字化を達成している。いずれにせよ、燃料調達については他社収集では赤字、自社収集を達成したことにより黒字化が図れた。

総事業費は４５億円、その内８億円の補助金を使用した。
間伐材の買い取り価格は８０００円／トン、一般材は６０００円／トン。



■　４月２２日　大分県日田市　日田十条（木質チップ供給会社の一つ）視察

次に訪れたのは、日田地域で木材チップ及び製材大手で知られる株式会社日田十条の瀬戸基彦社長と瀬戸製材(株)の瀬戸亨一郎社長を訪ね、木質チップ工場としての事業ににについてお話を伺った。

もともと日田地域で杉材を製材する工場であったが、大量に発生する端材は以前は薪として地域の家庭用燃料として需要があった。昭和３０年代に薪から他の燃料に変わり牧野需要が減少し始めた頃、製材端材をチップにして製紙原料に出来ないか、現在の八代の日本製紙に働きかけたところ、新聞用紙の利用が見込める目処が立ち木質チップの生産にも力を入れる。日田ウッドパワーに木材を供給する会社の一つとしていろいろお話を伺った。

木質バイオマス発電事業

１．再生エネルギー
　太陽光、風力、木質バイオマスなど様々名選択肢があるが、日田地域で木質バイオマス発電を始めたことにはそれなりの必然性がある。

２．依存型（制度と林業）
　もともと林業というのは、建築用資材などのために育てられているもので、燃やすことを目的に作られている訳ではない。

３．立地（資源背景だけでは語れない）

４．隣接施設との競合（乱立の様相）
　日田にももう一つの木質バイオマス発電所を建設中である。その他の地域でも同様の発電所計画が乱立する様相を呈している。

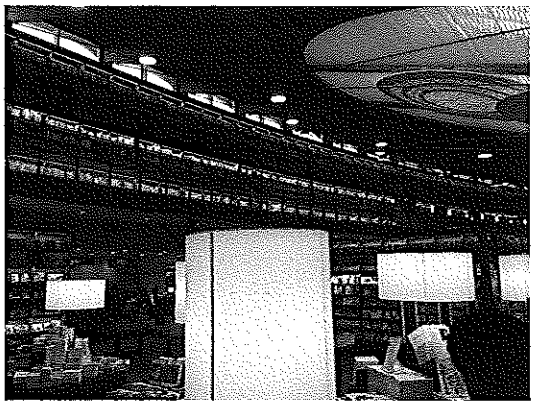
５．問題点（リスク要因）
　燃料の奪い合いによる価格の高騰。

６．行政の関わり方（コンセンサス・補助金）
　そもそも、現在の林業は補助金漬けの仕事となっており、補助金があれば木を切るが無ければ切らずにとっておく状況がみられる。

７．既存の産業との共存（行政の役割）
　木質バイオマスチップを生産するが為に、例えば日田地域では昔から、割り箸などの生産が盛んであるが、そういった原料が手に入りにくい状況に陥る状況がかつてあった。

いずれにせよ、木を扱うにはそれに精通したものが取り組むべきで、机上の空論で成り立つ商売では無いという言葉が胸に響いた。

■　４月２３日　佐賀県武雄市　武雄市立図書館視察



最近、やたらとテレビで取り上げられて一躍脚光を浴びている佐賀県武雄市の市立図書館を視察してきた。

武雄市は、佐賀県の西部にある市。佐賀市と長崎県佐世保市の中間に位置する町で、町の中心には開湯以来1300年経つ武雄温泉があり、人口50,000人の小さな街だ。

しかし、この街は樋渡啓輔市長になってから様々な取り組みで脚光を浴びる街となった。初めは市のホームページをソーシャルネットワークシステムの一つである、フェイスブックに移行したこと、市内の特産品や菓子類などの商品をｆ＆ｂ良品というネット市場を立ち上げて全国に販路を広げたこと。そして今年、取り組まれたのが、全国チェーンのＴＳＵＴＡＹＡを指定管理者に指名して、市立の図書館の運営を任せるという画期的な取り組み。　まずはその立地条件の良さに驚いた、市内を走る大通りに面しており、道路を挟んだ向かいには大型ショッピングセンター“ゆめタウン武雄”があり、市内でも一等地にドドーンと圧倒される外観。どちらかというと、遠慮がちに人目に付かないところにひっそりと建つのが図書館という私の概念を早速裏切ってくれた。

図書館の中に入ると、その開放感に驚く。どこからとも無く漂ってくるコーヒーの薫りが心地よい。私の大好きなスタバのコーヒーを注文して、開放感たっぷりのテラス席に越を下ろし、お目当ての本を読めるというこの満足感。時間の流れがここだけ違って見える。ＴＳＵＴＡＹＡだけなら、出水店や他の店にも行ったことがあり、商売商売しているが、ここは全く違って落ち着いた雰囲気がある。２階の壁までズラリと並んだ本が決して圧迫感を与えない。見事な設計である。１階の奥にはレンタルビデオのコーナーがあり、出入り口付近には書籍販売のコーナーもある。また２階には、落ち着いて勉強できるように学習ルームがあり、大変機能的にできている。これなら一度行ってみたいと現在、来館者が県外からも続々押しかけている状況というのも頷ける。水俣市も限られた財政事情はあるかもしれないが、日本一の読書のまちづくりを標榜するならば何か核となる施設が欲しいものだ。

以上

旅 行 報 告 書

会 派 名　創水会

会派代表者　大 川 末 長　様

平成25年6月4日

旅行者氏名	旅行者氏名
大 川 末 長	高 岡 利 治
渕 上 道 昭	田 口 憲 雄
江 口 隆 一	谷 口 明 弘

次の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間　平成25年 5月20日(月曜日)から

平成25年 5月22日(水曜日)まで

2 旅行先及び用務

旅行先	目　的
千葉県木更津市役所	市庁舎建て替えについて
神奈川県横須賀市役所	予算決算委員会について

創水会行政視察報告書

1　派遣者

大川　末長

渕上　道昭

真野　頼隆

高岡　利治

田口　憲雄

江口　隆一

谷口　明弘（報告者）

2　視察日時・視察先・視察項目

5月２０日（月）　木更津市役所（庁舎建て替え）ＪＮＣ市原製造所見学

5月２１日（火）　横須賀市役所（予算決算委員会）海上自衛隊横須賀基地

5月２２日（水）　国会見学・国土交通委員会見学・議員会館見学

3　視察の概要

■　5月２０日　木更津市役所　庁舎建てかえの進捗状況視察

木更津市は、人口が１３万人、東京湾アクアライン開通で広域幹線道路網の結節点として交通の利便性が飛躍的に高まり今後の発展が期待される町である。

現在の庁舎は、昭和４７年に建設されて以来、４０年が経過し、老朽化や耐震性能に課題があり、更に狭隘化、分散化、高度情報化への対応、バリアフリー対応などの点で市民サービスの低下を招いていた。

特に耐震性については、構造体新指標（Ｉｓ値）が０．２弱であり、「地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い」との評価になったため、庁舎昨日回復に向けた対策として、早期の新庁舎建設を目指し事業を進めている。

平成２５年４月に新庁舎建設にかかる「庁舎整備基本構想」を策定し、現在は「庁舎整備基本計画」の策定に取り掛かっている。

この「庁舎整備基本構想」、「庁舎整備基本計画」の策定には、学識経験者、関係団体の代表・市民で構成する「木更津市庁舎整備検討委員会」に諮問し、その答申を受けて策定するものである。詳細は、頂いた参考資料による。

また、事前に問い合わせていたこちらの質問次項については別紙参照。

いずれにせよ、水俣市庁舎は築５０年を超え、耐震強度

■　5月２０日　JNC 市原製造所の視察

JNC 市原製造所は千葉県市原市五井海岸に立地し、製造所用地面積は焼く

５１万平方メートル。説明の中で、水俣製造所も同じく約５０万平方メートルとおっしゃっていたが、とても同じ敷地面積には思えないくらい、スケールが大きく感じた。こちらの製造所では、石油化学製品を基礎素材として日用品から、自動車のパーツ、家電製品、食品包装材、肥料、塗料、建材、繊維製品まで、生活や産業に浸透したありとあらゆる分野で使用されている。

特に世界に先駆けて技術を確立した液晶部門も、今や、パソコンや携帯電話などに用いられる液晶ディスプレイに不可欠な機能材料となり、ポリプロピレン、ポリエチレン、及び液晶の分野では世界でもトップレベルの評価を得て、液晶では、シェアにおいても世界トップクラスの地位を築いている。液晶の原料は水俣工場で生産し、それを市原製造所で人の手によって調合して製品化している。

ブリーフィングのあと、工場内を車で案内していただいたが、可動式追尾方太陽光パネルの実験施設には興味をそそられた。太陽光パネルの角度を巡回ロボットが調節して回るという近未来的な設備であった。

また、東日本大震災のときに、隣の丸善石油コンビナートのタンクが爆発し吹き飛んできた状況や、すでに真新しいタンクが新設されている状況を見て、複雑な心境になった。

■　５月２１日　横須賀市役所　予算決算委員会の現状視察

横須賀市は神奈川県三浦半島の中心部にあり、東京湾と相模湾に面した国際港湾都市。ペリーの黒船が浦賀沖に現れて依頼「開国のまち」として、その後は軍港都市として発展してきた。人口は約４１万人、国際色豊かなまちである。

今回の訪問の目的は予算決算常任委員会の取り組み状況の視察であった。水俣市でも、本年度から、京丹後市に倣って、執行部の当初予算を決まったフォーマットですべて書き出していただき、全員協議会で説明を頂いたが、事業の詳細が良くわかり、執行部は大変な負担であったかも知れないが、議会としては、どのような事業なのか、一目瞭然で大変有意義な取り組みであると感じていた。そこで、横須賀市の取り組みを見せていただいたのでが、平成２２年度に制定された議会基本条例に基づく主な取り組みのひとつとして、予算決算常任委員会による審査を取り入れた。

予算決算常任委員会の設置の目的は、①従来の分割付託による審査方法は、各委員会での表決結果が本会議での表決結果と異なる可能性があるなどの矛盾が生じることからこれを解消する。②予算審査と決算審査を同一議員が行うことにより、総合的・一体的な審査を行う。詳細は添付資料参照。

また、訪問目的とは異なるが、議会基本条例の中で、議会報告会を開催しているとの説明があり、参加していただく市民の数などを質問したところ、１年に１回、市内の５会場で、議員が８～９名づつに別れて行い、一会場あたりの市民の参加者数は、わずか１４～５人。人口４１万人の大都市にも関わらず、そのような状況なのだと驚かされた。

横須賀市議会をわかりやすく解説した『議会でゲンキ！』は、中学校の副読本にも採用

されるなど、素晴らしいできばえであると思う。

■　５月２１日　海上自衛隊横須賀基地　表敬訪問

今年初めて八代海で行われた掃海訓練で水俣港に入港した掃海艇の艦隊と掃海母艦うらがが所属する海上自衛隊横須賀基地を訪問した。

まずは、うらがに乗船するとき敬礼で迎えられ、ブリーフィングルームに案内された。

そもそも、掃海とは、戦時下で海上又は海底に敷設された機雷を除去（爆破処理）などを行うことです。意外かも知れませんが、戦後７０年近く経とうとしている今日でも、港湾の緒浚渫作業時には今だに当時の機雷が発見されており、年間１個のペースで除去処理を行っているそうだ。

昨今では、ペルシャ湾に派遣され、多国籍軍と協同して、ペルシャ湾内に敷設された嫌いの除去を通して国際貢献に一役かっているそうだ。シーレーンを封鎖されれば忽ち、わが国のエネルギー不足の事態を招くので、大変な任務であるががんばっていただきたい。それから、来年以降も八代海での掃海訓練を行いたいとの申し出が司令官からでたので、我々、議員としては、地元漁協との調整などを推進し、市内の経済効果の高い掃海隊群の水俣停泊はぜひとも来年以降継続事業にするべきであると考える。

■　５月２２日　国会及び国土交通委員会視察

国土交通委員会が開催されている会議室の傍聴席に入り、審議の行方をみた。固定資産税について審議されていたが、質問者の声がよく聞き取れない。書記官などがたくさんおり、議員の出入りも自由のようで、少し緊張感が欠けている印象を持った。

国会議事堂の視察は中は初めてであったが、修学旅行生と思われる一団や、敬老会、婦人会の一団などがたくさん見学に見えており、大変な混雑であった。また、傍聴席までは相当急な傾斜の階段を延々と登らなくてはならず、足の悪いお年寄りは、大変そうだった。議員会館、国会議事堂共に、中に入るには厳重なセキュリティーチェックが行われ、道路には多くの機動隊員が警戒しており、物々しい雰囲気の中の視察だった。

旅 行 報 告 書

会 派 名　創水会

会派代表者　大 川 末 長

平成25年10月9日

旅行者氏名	旅行者氏名
大 川 末 長	髙 岡 利 治
渕 上 道 昭	真 野 頼 隆
田 口 憲 雄	江 口 隆 一
谷 口 明 弘	

次の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間　平成25年10月2日(水曜日)から

平成25年10月5日(土曜日)まで

2 旅行先及び用務の概要

旅行先	目　的
沖縄県那覇市役所	庁舎建てかえについて
沖縄県久米島町 (海洋深層水研究所)	海洋温度差発電について
沖縄市役所	庁舎建てかえについて
名護市役所	産業支援センターについて

創水会視察

10月2日～10月5日

＊那覇市役所：「庁舎建てかえについて」10月2日　13：30

新庁舎建設の主だった経緯

昭和63年4月　「新庁舎建設基金条例」を制定
平成18年8月　庁舎の耐力度調査及び劣化調査実施
11月　調査結果を受けて新庁舎建設に関する方針等の表明
12月　庁内に「新庁舎建設検討委員会」設置
平成19年1月　「新庁舎基本構想審議会」設置、諮問
3月　「新庁舎建設に関する調査特別委員会」設置(市議会)
7月　新庁舎基本構想審議会答申
8月　「新庁舎建設に関する要請決議」可決（市議会）
平成20年3月　「新庁舎基本構想」策定
4月　「新庁舎基本計画市民ワークショップ」開催
9月　「新庁舎設計者選定市民プロポーザル」実施
11月　プロポーザル最優秀者の決定

平成21年9月　仮庁舎完成、仮移転
10月　旧庁舎解体工事着手
12月　「新庁舎基本設計」完成
平成22年3月　「新庁舎実施設計」完成
4月　旧庁舎解体工事完了
6月　新庁舎建設工事着手
平成24年12月　新庁舎完成、本移転
平成25年1月　新庁舎供用開始

新庁舎の基本的考え方の7つの柱

○人に優しい庁舎○市民の安心、安全な暮らしを支える拠点となる庁舎○市民サービス、事務能率の向上をめざした効率的な庁舎○市民協働の場となる庁舎○地球環境に配慮した庁舎○将来の行政需要の変化にも対応できる庁舎○市民が愛着を持てるような品格のある庁舎

事業計画

（事業方法）

○「直営方式」○「リース方式」○「ＰＦＩ方式」があるが、起債による低利での資金調達と長期の償還期間ができる利点と、地場企業参入の容易性を総合的に判断し「直営方式」により整備を行う。

（設計者選定）

○　「競争入札方式」○「プロポーザル方式」○「コンペ方式」から発注者や市民の意見を反映しやすい「プロポーザル方式」で行う。

（事業費）
総事業費　約 8.900.000 千円
財源内訳　・新庁舎建設基金　約 3.640.000 千円　　・地方債、その他　約 5.260.000 千円
事業費内訳　・建設工事、解体その他工事　約 8.340.000 千円
　　・　調査、設計、工事管理、その他　約 560.000 千円
（感想と考察）
当然のことかもしれないが、建設の 20 年以上も前から計画的に積み立てを行っていくところなどは未だに建設計画にも取り掛かろうともしない無策な水俣市は見習わなければならない部分だろう。

移転せず同じ土地に立て替えた事で、仮庁舎代、2 度の引越し費用など多額の経費を要した事には多くの疑問が残るが、短期間で計画を進められたのは場所を変えなかった事も理由に挙げられるので、住民感情を刺激せず進められた事は総合的には正解だったのかもしれない。
　逆に海や川の近くで海抜の低い場所にある水俣市役所は、移転しなければならない可能性も高くまた他市より環境に特化しなければならない宿命もあり、気の遠くなるようなハードルの高さに「正直手を付けたくないな。」と言う思いにさえさせられる。

　地価が高く狭小で、高齢化社会に対応した建物にするという点は水俣市にも共通するところであり参考にしたかったのだが、あまり特別な工夫跡は見受けられず吹き抜けを作る事で明るく高級感は出たものの複雑で分かりにくく有効面積の浪費であり、正直建物の窓口の色を右と左で色分けした以外は斬新さは皆無に近かった。
高齢者にやさしい庁舎にするのであれば、病院のように行き先別に通路に線を引き誘導をした方が良いのではと感じた。
　反省すべき点として、那覇市は授乳室にエアコンを付けなかったため「暑い」との苦情が多い点を述べられた。
特質すべきところは、駐車場の管理を業者に委託。
しかし昼間は無料、夕方から有料駐車場に変貌し夜や休日の駐車料金でまかなうシステムを導入しており、水俣市では活用する機会はないかもしれないが新たなモデルとしては参考となった。

＊　海洋深層水研究所　「海洋温度差発電について」10 月 3 日　13：00
発電のしくみ
発電設備は温度の違う深層水と表層水を取り込み、熱交換器によってアンモニアなど沸点の低い媒体を循環させる。温度の高い表層水で媒体を気化させて、その蒸気で発電タービンを回す仕組みだ。気化した媒体は温度の低い深層水で液体に戻して、再び表層水を使って気化できるようにする。
久米島の実証実験では、表層水と深層水の約 20 度ある温度差を利用して、50kW の発電を可能にした。この設備の熱交換器の部分に伝熱性能の高いチタン板を新たに採用して、発電効率の向上にも取り組む。
　久米島の周辺海域では、海面に近い表層部分の水温は夏季に 30 度近くまで上昇し、冬季でも 20 度を超える。一方で水深が深くなると水の標準温度である 4 度に近づいていく。実証実験では海水をくみ上げるコストと温度差を検討して、水深 700 メートルの深層水を取り込むことにした。
　当面は性能試験を続けながら、次のステップとして発電能力が 1MW を超える大規模な設備の導入準備を進める計画だ。加えて発電設備の周辺に海洋深層水の利用設備を展開して、地域全体で海洋エネルギーを有効に活用できる体制づくりを目指す。

（感想と考察）

水深 600mから水をくみ上げているが、要は温度差を利用し発電するもので別に海洋深層水でなくても発電はできるという事で、工場廃水や温泉等の活用ができれば水俣市での設置も可能かもしれない。

この発電方式は水をくみ上げるだけで電気を作る、環境に優しくランニングコストも安いため実用化は早いだろう。

熱交換器の技術が進化するならば、効率も上がり普及の可能性も広がるので今後もその動きを注視していきたい。

また副産物として雑菌の少ない栄養価に富んだ海水で養殖を行えるため、離島振興にも大きく寄与する事になるかもしれない。

＊ 名護市産業支援センター「名護市支援センターについて」　10月4日　9；40

概要

センターは、中心市街地の活性化や新規雇用創出、起業家育成支援を目的に約２３億円の総事業費で建設された。地上７階建て、延べ床面積は約５６００平方メートル。センターの管理運営は、市商工会が行う。入居はコールセンター業務のもしもしホットラインや、ＩＴ企業の日本ユニシスなどの企業や団体。

（感想と考察）

行政や商工団体、支援委員が一つのビルに同居し、垣根を越え連携を取りながら起業家支援を行う事は今では画期的とは思わないが、地方では珍しい事かもしれない。

それでは駄目なのだが、その体質そのものが行政の壁であり改善すべきところであるにも係わらず、看板の架け替えや人員の配置で満足しがちな傾向は早急に改善すべきであり視察に行かせて頂いたのだが同様のものを感じた。

水俣市でも行っているが起業家支援員からは「異業種のマッチング」の話が出たが、商工会議所、商工会は異業種で構成してあり、本音を言えば産業支援センターの本来の役割は別のところにあるのに同じような話が沖縄でも聞けたのは、流行なのか、自分の考えか不思議に思ったが効果は期待できないと思ったので質問はしなかった。

前段でも述べたが、創業者、事業者の苦労や悩みをまったく違う人生を歩んできた公務員の人達に理解させるのはとても難しい事であり、根本的にはまず資本主義社会、マーケッティング、資金繰りを担当者が理解する事が重要な事であり、それからでないと本当の支援は難しいのでは・・。と感じた視察となった。

旅 行 報 告 書

会 派 名　創水会

会派代表者　髙 岡 利 治

平成26年3月26日

旅行者氏名	旅行者氏名
大 川 末 長	真 野 頼 隆
渕 上 道 昭	髙 岡 利 治
谷 口 明 弘	

次の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間　　平成26年3月25日（火曜日） 1日間

2 旅行先及び用務

旅行先	目　的
上天草市松島庁舎	窓口業務等の民間委託にについて

創水会行政視察報告書

1　派遣者

大川　末長・渕上　道昭・真野　頼隆・高岡　利治・谷口　明弘（報告者）

2　視察日時・視察先・視察項目

３月２５日（火）　熊本県上天草市　松島庁舎視察

3　視察の概要　窓口業務の民間委託運営状況視察

西田新市長がマニフェストにうたっている仕事のできる市役所づくりの一丁目一番地、市民サービスの基本である「窓口サービス」の充実と日本一親切な窓口業務。先進自治体では、窓口業務を民間委託するところも出てきている。九州では４自治体が既に実施している制度であるが、県内では上天草市でこの制度を平成 25 年度から取り入れていると聞き現在の状況を学ぶために松島庁舎を訪れた。

まず、建物の約７割が木材で作られた庁舎の内装に驚かされた。床と壁はほぼ県産材を使用してあり、農林水産省の補助金、通常３億程度を、特別交付金 20 億円を使って建てかえが実現できたそうだ。木の香りとぬくもりを感じられる庁舎の雰囲気は訪れる市民はもちろん、中で働く職員のモチベーションも高く維持出来ると大変好評であった。さて、本題の窓口業務の民間委託の件であるが平成 23 年 12 月に本件に関する調査を本格的に開始した。取り組みを開始するに至った背景として、①少子高齢化　②景気の低迷　③市税等収入の減少　④多様化する住民のニーズがある。特に合併特例給付金の支給が平成 26 年度から段階的に縮減されることが既定路線となっている中、具体的には５年後には現在の普通交付税７６億円から６０億円に減る見込みとなっており、歳出の削減は喫緊の課題であった。市としては歳出削減の一つの手段として窓口業務を一本化し、市の職員を政策立案などの主要部門に配置転換する事によって正職員の人員削減を達成出来た。１年目の試算では約８０００万円のコスト削減を達成している。

また、民間委託した後の市民の反応は、概ね好評で、以前は水俣市役所のように職員はカウンターに対して９０度の机の配置であったが、窓口業務すべてを１カ所に集中させたことによって対面型の接遇体制にし、民間社員はすべて制服で対応する。奥で仕事をする正職員をパーテーションなどで仕切ることによって市民直接目に触れない状況となり、市民の方からは、市役所の雰囲気がガラっと変わった。あちこちの部署に足を運ばなくて良くなったとお褒めの言葉を頂いている状況であるとのことだった。課題としては、民間になってから社員の定着率や守秘義務の問題が課題との事であった。因みに民間業者の選定にはプロポーザル方式で実施し、上天草市内業者１者を含む５業者が参入を表明。評価基準の中でも地域貢献（地元雇用など）に関する考え方や個人情報保護に関する考え方な対しては配点を高くし、業者を決定する際に重視した。今後水俣市でも参考になる取り組みでは無いかと思う。

以上